農業農村整備の集い

～農地を守り、地方を創る予算の確保に向けて～

会場の様子

11月11日（月）砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」で、令和2年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、全国から関係者約800名が参集した。

本県からは、34名の土地改良区役職員の参加があった。

二階全土連会長

二階俊博全土連会長が挨拶に立ち「今年も前線に伴う大雨や台風の暴風雨などにより、多くの災害が発生しています。お亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、関係の皆様及び被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げる。平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含め、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来た。

江藤農林水産大臣

また、この7月の参議院選挙においては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取った。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの『車の両輪体制』が実現した。現在、来年度の予算編成作業が進められているが、更なる高みを目指していくためには、皆さん、やはり『闘って行く』前進のためには、これしかありません。

『闘う土地改良』は続きます。皆様方の更なる御支援・御尽力を御願いする」と決意を述べた。

ガンバロウ三唱

また、江藤拓農林水産大臣からの力強いご祝辞をいただくとともに、多くの国会議員の皆様に駆け付けて頂いた。

その後、要請文提案と採択が行われ、ガンバロウ三唱で閉会し、ブロック別に関係省庁への要請活動が行われた。

記

一　農林水産業は国の基であり、土地改良はその根幹を成すものである。土地改良事業の計画的・安定的な推進のため、令和二年度予算について、現場のニーズに応えられるよう、必要な予算を確保すること。

二　今般の台風第十九号をはじめとした、近年の大規模災害からの復旧・復興を早急かつ加速度的に進めること。その際は、原形復旧に止まらず、再度災害防止のための措置についても、必要に応じて講じること。

三　農業の競争力強化の実現のため、野菜等の高収益作物の導入や、農地集積・集約化を促す農地の大区画化・汎用化と水田の畑地化をより一層推進すること。

四　農村地域の国土強靭化の実現のため、老朽化した農業水利施設の長寿命化及び豪雨・耐震化対策等をより一層推進すること。
　特に、防災・減災、国土強靭化のための三か年緊急対策について、令和二年度で確実に完了するよう、十分な予算措置を講じるとともに、令和三年度以降の対策について、必要な検討を行うこと。

五　本年四月に施行された改正土地改良法の適切な運用を図るため、その普及啓発に努めるとともに、土地改良区や組合員の声に真摯に耳を傾け、複式簿記の導入など土地改良区の運営基盤の強化に対する支援を推進すること。

六「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」について、引き続き、広く国民に向けてその周知を図るとともに、現場の実態をよく踏まえた上で、必要となる財政的支援等を講じること。

令和元年度水土里キッズのわくわく探訪inおが

9月7日（土）快晴の中、「水土里キッズのわくわく探訪inおが」を開催した。今回は秋田市から32名、男鹿市から2名の参加があり児童、保護者、スタッフを含め総勢42名での「わくわく探訪」となった。

始めに、秋田市・男鹿市でそれぞれ参加者に集まって頂いた後、**梨の名産地**として知られる男鹿市の中石地域で梨畑を車窓から見学した。梨畑には今が旬の大ぶりでおいしそうな梨がたくさん実っており、子どもたちも「梨がたくさんなっている！すごい！」と興奮気味の様子だった。

続いて、開校式と併せ**滝の頭湧水・円形分水工、浄水場**の見学を行った。開校式では、男鹿市五里合土地改良区の佐々木理事長、並びに同土地改良区の東山 長十郎こと鈴木理事から挨拶を頂いた後、今回ご協力頂く男鹿市企業局上下水道課小野主幹、山下主任、中田技師、小坂管理人、男鹿市土地改良区夏井さんの紹介があった。

開校式の後、2班に分かれ、1班は始めに滝の頭湧水、円形分水工、浄水場の順番で見学し、2班は逆のルートで見学をスタートした。

滝の頭湧水では男鹿市五里合土地改良区佐々木理事長より、滝の頭湧水が発見された歴史や、今流れ出ている水は**約20年前の水**であり、**名水百選**にも選ばれるほど水質が良い事など詳しく説明して頂いた。以前は**100%農業用水**として使われていたが、今では飲料水用にも分け、**男鹿市内の様々な地域へと行き渡っている。**説明後、実際にわき水を汲み、参加者全員で**美味しい水を飲んだ。**とても冷たく、なめらかな口当たりとなっていて子ども達も口を揃えて「美味しい！」と言いながら飲んでおり、楽しく水と触れ合うことができた。

円形分水工・浄水場では、男鹿市企業局上下水道課の方々に説明して頂き、円形分水工には38カ所もの穴が空いている事、滝の頭湧水から来た水がここで農業用水と浄水場へ分けられている事や、浄水場へ来た水は各地域へ行き渡る前に綺麗にろ過され、汚れを取り除いてからさらに消毒をして男鹿の各家庭へと送られている事などを学ぶことができた。

滝の頭湧水の見学後、温泉施設「温浴ランドおが」にて美味しいカレーライスを食べ、昼食後は毎年恒例となったゲーム大会を参加者全員で行った。今回はミニカーや紙コップ、カラー輪ゴムを使った様々なゲームを行い楽しい時間を過ごすことができた。

午後からは、**八望台の展望台**に登り、**一ノ目潟**と**二ノ目潟**を見学した。道中のバスの中で男鹿市土地改良区夏井さんから「**一ノ目潟の不思議**」と題して、どのようにして一ノ目潟・二ノ目潟ができたのかなど子ども達に分かりやすいように丁寧に説明して頂いた。

続いて**入道崎**に移動し、**北緯40度のモニュメント**の見学を行った。このモニュメントは、寒風山の岩から出来ており、北緯40度が男鹿半島にある記念として建てられた。子ども達はモニュメントの先端にある「北斗の石」から面白そうに覗き込み、男鹿の地形の特徴について楽しく学ぶ事ができた。見学後、売店の**お土産売り場**へ向かった。売店では男鹿の限定の物や入道崎ならではのお土産が沢山売っており、参加者は個々にお土産を買った。

入道崎見学後、**「なまはげ館・男鹿真山伝承館」**でなまはげ体験を行った。なまはげ館では、最初に巨大なスクリーンで映画「なまはげの一夜」を見た後、いよいよ**「なまはげ体験」**が始まった。子ども達の中には初めて本物の「なまはげ」を見る子もいたようで「怖くて行きたくない！」という子も多数いたが、いざ始まってみると、最初は大きな音に驚いた様子だったが、なまはげの声に耳を傾け熱心に聞き入っている様子だった。

最後に**寒風山**へ行き、本会総務企画部阿部次長より挨拶を頂き、令和元年度「水土里キッズのわくわく探訪inおが」は閉講となった。

今回の**「わくわく探訪」**は男鹿の魅力が盛りだくさんの内容となったが、男鹿の農業水利施設だけではなく男鹿ならではの**「場所」**や**「文化」**に触れながら勉強する事ができた。男鹿のシンボルとも言える寒風山から流れ出る水が「男鹿」に暮らす人々へ供給されている。かつての火山活動が**「一ノ目潟」**や**「二ノ目潟」**を生んだ事はとても神秘的であり、我々は今も昔も自然と共に共存して生活しなければならないと参加者にとっての気付きの場とする事ができた。

普段、なかなか行く事の出来ない施設を訪れ、様々な事を学び、参加者全員にとって忘れられない思い出となった事だと思う。

また、**参加者同士が仲良くなり交流してもらえた事**や、帰りに**「楽しかった！」「また来年も参加したい！」**という声を聞けた事は、我々スタッフにとっても嬉しく、夏の終わりの楽しい思い出となった。

令和元年度

第2回水土里の広報委員会を開催

10月25日（金）、土地連第1会議室にて「令和元年度第2回水土里の広報委員会」が開催された。今回の広報委員会ではグループワークを行い、今年度3月発刊予定の**「水土里ネットだよりVol.4について」**、また、前回第1回水土里の広報委員会を踏まえて各改良区の広報誌にどのような変更が成されたかを**「改良区発刊広報誌について」**と題してそれぞれ意見を出し合ってもらった。

開会にあたり、水土里ネット秋田の金森常務理事より「前回の委員会ではワークショップを開催して、広報についての研鑽を行って頂いたが、その成果は既に水土里ネットの広報誌等で発揮されていることと思う。本日は更に**委員同士の意見交換を通じて広報の技法を磨く**べく、是非忌憚のない意見を出し合い、**それぞれの目指す広報誌の作成に役立つ成果**が得られることを願っている」と挨拶があった。

グループワークで出された意見や要望については次のとおりである。

○「水土里ネットだよりVol.4について」

・表紙のデザインを**写真や絵をメインにして**引きつけるデザインにする
・配布先を広げることや、**大人にもっと興味を持ってもらえる誌面**づくり
・21世紀創造運動のアイディアの参考となるようなページを設ける等

○「改良区発刊広報誌について」

・**表紙を一新**したことで、目を引くデザインにすることが出来た
・従来よりも**ほ場整備を大きく取り上げ**て掲載した
・会計報告表だけだったものを**グラフ化**して見やすくした等

改良区発刊の広報誌については、「増税に伴う**広報経費の工夫の必要性**について」や、「**型がある程度決まっている誌面へどのように工夫を反映**していくか」についても話し合いが行われていた。今回の委員会では、広報誌作成においてネックになっている部分についても情報共有の場となり、有意義な委員会とすることが出来た。

今回出された意見を反映して、より親しまれる「水土里ネットだより」の発刊に向かって広報委員会と事務局が一丸となって取り組んでいきたい。また、改良区毎の広報誌作成についての**工夫された点や編集の悩みを共有**することで県内改良区の**広報誌作成に役立つ情報を発信**出来るような体制を作るため、委員会と事務局は今後一層連携を深めていく。